

米国の洪水危険地図

米国では年確率1%の洪水により浸水する区域を特別洪水危険区域 (Special Flood Hazard Area) 又は高リスク区域 (high risk area) として規定。同区域内では地元の条例を満足すれば土地開発が可能だが、連邦の融資等による土地・建物の購入・建築には洪水保険加入が必要。同区域が表示された洪水保険料率地図 (Flood Insurance Rate Maps) 等をFEMA (連邦危機管理庁) が提供。

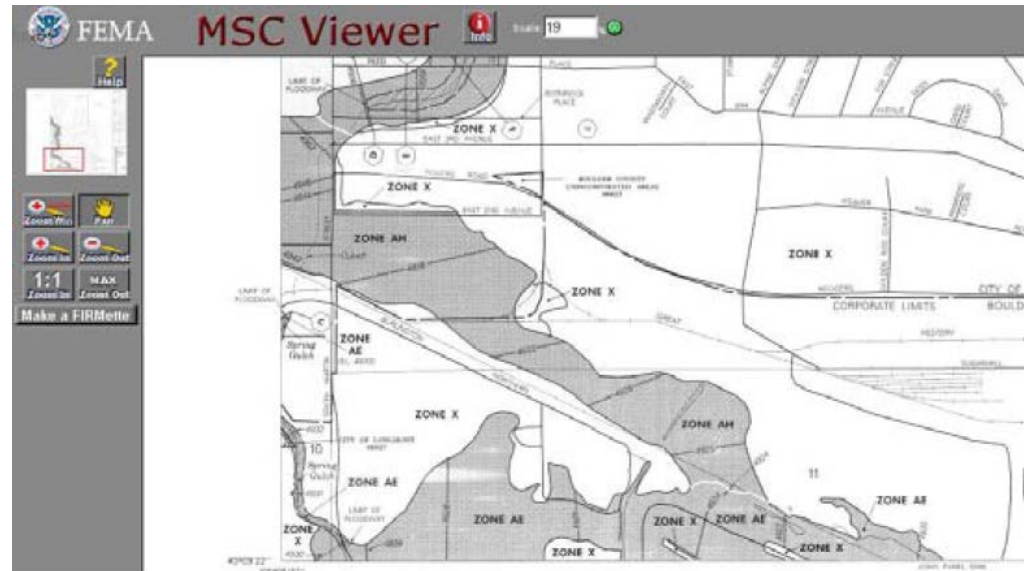
○詳細な区域例

- (1)AE区域: 年確率1%の洪水による浸水範囲。基準洪水位 (Base Flood Elevation) が示される。洪水保険加入義務あり。
- (2)AH区域: 年確率1%の洪水による平均1~3フィート (約30~90cm) の浅い浸水範囲 (一般に池状の区域)。詳細な水理解析による基準洪水位が示される。洪水保険加入義務あり。
- (3)AO区域: 年確率1%の洪水による平均1~3フィートの浅い浸水範囲 (一般に傾斜地の薄層流)。詳細な水理解析による平均浸水深が示される。洪水保険加入義務あり。^{*1}

米国では1968年の国家洪水保険プログラム発効前の主要河川の基準プロジェクト洪水 (Standard Project Flood) はおおむね年確率0.2~0.1% (再現期間500~1,000年) 規模の洪水。同プログラムが1%年確率洪水からの防御を保険加入免除の要件としていることから、近年は年確率1%の規模の洪水が目標設計レベルとして採用されることが多い。^{*2}

※FEMAの洪水保険地図の例→
(コロラド州ボルダー郡)

© 2007 Netherlands Ministry of Transport, Public Works and Water Management



^{*1} Jos van Alphen, Ron Passchier and Victor Jetten, RWS-RIKZ National Institute for Coastal and Marine Management, Netherlands, "Atlas of Flood Maps", pp6-144 - 6-145, 2007.

^{*2} National Committee on Levee Safety, "DRAFT RECOMMENDATIONS FOR A NATIONAL LEVEE SAFETY PROGRAM", pp9-10, 2009.